

KAWABUCHI, Yoji et al.

May 2, 2001

BSK B

(703) 205-8000

0445-0300P

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 5月26日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-156872

出 願 人

Applicant (s):

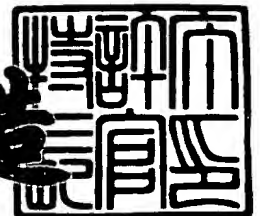
花王株式会社



2001年 1月12日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3111472

【書類名】 特許願

【整理番号】 P00-382

【提出日】 平成12年 5月26日

【あて先】 特許庁長官 近藤 隆彦 殿

【国際特許分類】 B65D 5/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内

【氏名】 川口 裕次

【発明者】

【住所又は居所】 東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会社研究所内

【氏名】 藤田 実智昭

【特許出願人】

【識別番号】 000000918

【氏名又は名称】 花王株式会社

【代理人】

【識別番号】 100076532

【弁理士】

【氏名又は名称】 羽鳥 修

【選任した代理人】

【識別番号】 100101292

【弁理士】

【氏名又は名称】 松嶋 善之

【選任した代理人】

【識別番号】 100107205

【弁理士】

【氏名又は名称】 前田 秀一

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 013398

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9902363

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 紙容器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 紙を製函して形成される 6 面体形状の紙容器において、  
容器本体と、該容器本体の上端開口面の背面側縁部にヒンジ接合されて当該上  
端開口面を開閉する蓋部材とからなり、

前記容器本体の正面板には前記上端開口面から延設された凹状切り欠き部が形  
成されており、

前記蓋部材は、前記上端開口面を覆う上面蓋部と、前記凹状切り欠き部を覆う  
大きさの正面蓋部と、前記上面蓋部の側縁部と前記正面蓋部の側縁部との間に介  
在して前記上面蓋部に対して前記正面蓋部を垂直に接合させる一对の側面蓋部と  
からなる紙容器。

【請求項 2】 前記容器本体の内側には印籠部が装着されると共に、該印籠  
部の正面板に前記凹状切り欠き部が形成されており、

前記容器本体及び蓋部材は、6 面体形状の紙箱を、当該紙箱の上面板と背面板  
との接続稜線の両端から延長する切断誘導線を介して切断分割することにより形  
成され、

該切断誘導線は、前記接続稜線の両端から一对の側面板に沿って各々斜め下方  
に延長し、前記印籠部の正面板に形成された前記凹状切り欠き部の下方において  
前記正面板に沿って延長している請求項 1 記載の紙容器。

【請求項 3】 前記凹状切り欠き部の下方には、前記蓋部材の正面蓋部の下  
端部分を係止する係止部が設けられている請求項 1 又は 2 に記載の紙容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本発明は、紙を製函して形成される 6 面体形状の紙容器に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

洗剤や食品等を収容する容器として六面体状の紙容器が広く使用されている。

この紙容器は、収容物を収容する容器本体と該容器本体の上端開口面を覆う蓋部材とからなり、該蓋部材を開閉して収容物を取り出す。蓋部材としては、容器本体と別体として設けられた取り外し可能な開閉蓋や、上端開口面の背面側縁部に開閉可能にヒンジ結合され、先端部分を折り曲げて形成した係止片を上端開口面の正面側縁部の内側に係止して封止状態とする蓋板が知られている。

## 【 0 0 0 3 】

しかしながら、従来の紙容器によれば、開閉蓋を別体としたものは取り扱いに不便であり、蓋板によるものは周囲に隙間が生じやすく良好な封止状態を得ることが難しい。また、特に収容物として板状物を積層状態で収容する場合には、収容物を上端開口面から取り出しにくい。

## 【 0 0 0 4 】

本発明は、扱い易く、閉蓋時における良好な封止状態を得ることできると共に、収容物の取り出し易さを改善した紙容器の提供を目的とする。

## 【 0 0 0 5 】

## 【課題を解決するための手段】

本発明は、紙を製函して形成される 6 面体形状の紙容器において、容器本体と、該容器本体の上端開口面の背面側縁部にヒンジ接合されて当該上端開口面を開閉する蓋部材とからなり、前記容器本体の正面板には前記上端開口面から延設された凹状切り欠き部が形成されており、前記蓋部材は、前記上端開口面を覆う上面蓋部と、前記凹状切り欠き部を覆う大きさの正面蓋部と、前記上面蓋部の側縁部と前記正面蓋部の側縁部との間に介在して前記上面蓋部に対して前記正面蓋部を垂直に接合させる一対の側面蓋部とからなる紙容器を提供することにより、上記目的を達成したものである。

## 【 0 0 0 6 】

## 【発明の実施の形態】

本発明の好ましい実施形態に係る紙容器 1 0 は、図 1 に示すように、一例として薄板状の収容物であるシート状洗剤 1 1 を多数積層した状態で収容する容器として使用される。なお、シート状洗剤 1 1 は、洗濯用の洗剤を水溶性シートで挟み込んでシート状に形成され、これのそのまま洗濯機等に投入して、洗濯に供さ

れるものである。

【 0 0 0 7 】

本実施形態の紙容器 1 0 は、板紙を製函して形成される直方体形状の紙容器であって、容器本体 1 2 と、容器本体 1 2 の上端開口面 1 3 の背面側縁部にヒンジ接合されて上端開口面 1 3 を開閉する蓋部材 1 4 とからなる。また、容器本体 1 2 の正面板 1 5 には上端開口面 1 3 から延設された凹状切り欠き部 1 6 が形成されている。蓋部材 1 4 は、上端開口面 1 3 を覆う上面蓋部 1 7 と、凹状切り欠き部 1 6 を覆う大きさの正面蓋部 1 8 と、上面蓋部 1 7 の側縁部と正面蓋部 1 8 の側縁部との間に介在して上面蓋部 1 7 に対して正面蓋部 1 8 を垂直に接合させる一対の側面蓋部 1 9 とからなる。

【 0 0 0 8 】

紙容器 1 0 を構成する板紙は、例えば紙基材と、紙基材の外側面を覆う印刷層及び外側フィルムと、内側面を覆う内側フィルムとからなる積層紙である。この板紙を所定の展開形状に切断すると共に立体形状となるように折り曲げ、適宜箇所を接着することによって、例えば縦 9 0 m m 、横 1 3 0 m m 、高さ 1 0 0 m m 程度の大きさの直方体形状の紙容器 1 0 が形成される。

【 0 0 0 9 】

容器本体 1 2 は、上端面が上端開口面 1 3 として開口する直方体形状の箱体である。本実施形態によれば、容器本体 1 2 は、図 2 に示すように、当該容器本体 1 2 を構成する外殻体 2 0 の内側に直方体形状の印籠部 2 1 が装着されることにより、二重構造を備える。そして、印籠部 2 1 の正面板 2 2 の上半部分及び一対の側面板 2 3 の上半部分は外殻体 2 0 の上方に露出して、当該外殻体 2 0 と共に容器本体 1 2 の正面板 1 5 及び側面板 2 5 を形成する（図 1 参照）。

【 0 0 1 0 】

また、本実施形態によれば、容器本体 1 2 の正面板 1 5 を構成する印籠部 2 1 の露出した正面板 2 2 には、容器本体 1 2 の上端開口面 1 3 から延設された上記凹状切り欠き部 1 6 が、横 1 0 0 m m 、高さ 6 0 m m の領域内において下端縁部を湾曲させた状態で形成されている。また凹状切り欠き部 1 6 の湾曲する下端縁部の中央部分には、両側に切り込み 2 4 を入れることにより、舌状係止部 2 6 が形

成されている。この舌状係止部 2 6 には、紙容器 1 0 の閉蓋時に、後述する蓋部材 1 4 の正面蓋部 1 8 の下端部分が係止される（図 3 参照）。

#### 【 0 0 1 1 】

蓋部材 1 4 は、その上面蓋部 1 7 の背面側縁部が、容器本体 1 2 を構成する外殻体 2 0 の背面板 2 7 の上端縁部に折れ癖線 2 8 を介してヒンジ接合されており（図 2 参照）、この折れ癖線 2 8 を中心に回動して上端開口面 1 3 を開閉する。上面蓋部 1 7 は、上端開口面 1 3 の大きさと略同様の、縦 9 0 m m、横 1 3 0 m m の矩形形状を有し、閉蓋時に上端開口面 1 3 を上方から被せるようにして配置される。正面蓋部 1 8 は、横 1 3 0 m m、高さ 6 5 m m の矩形形状を有し、その上端縁部が上面蓋部 1 7 の正面側縁部と垂直に接合している。また、図 3 に示すように、正面蓋部 1 8 は、閉蓋時にその下端縁部が容器本体 1 2 の凹状切り欠き部 1 6 の下方に位置し、その下端部分が切り込み 2 4 に挟み込まれるようにして舌状係止部 2 6 に係止されることにより、凹状切り欠き部 1 6 を前方から被せるように覆って配置される。側面蓋部 1 9 は、各々縦 9 0 m m、高さ 6 5 m m の直角 3 角形状を有し、直角を挟んだ上端縁部と正面側縁部とを、上面蓋部 1 7 の側縁部と正面蓋部 1 8 の側縁部に各々接合することにより、上面蓋部 1 7 に対して正面蓋部 1 8 を垂直に接合させた状態を保持する。

#### 【 0 0 1 2 】

本実施形態によれば、容器本体 1 2 を構成する外殻体 2 0 と蓋部材 1 4 とは、図 4 に示すように、6 面体形状の紙箱 2 9 を、当該紙箱 2 9 の上面板 3 0 と背面板 3 1 との接続稜線 3 2 の両端から延長する切断帯 3 3 を介して切断分割することにより形成される。切断帯 3 3 は、切断誘導線としての上下一対のミシン目 3 4、3 5 に挟まれて形成され、当該切断帯 3 3 をミシン目 3 4、3 5 に沿って引き裂くことにより、紙箱 2 9 は、接続稜線 3 2 を折れ癖線 2 8 として互いにヒンジ結合される外殻体 2 0 と蓋部材 1 4 とに分割される。上方に位置するミシン目 3 4 は、接続稜線 3 2 の両端から紙箱 2 9 の一对の側面板 3 6 に沿って各々斜め下方に延長し、印籠部 2 1 の正面板 2 2 に形成された凹状切り欠き部 1 6 の下方において紙箱 2 9 の正面板 3 7 に沿って延長している。これによって形成された蓋部材 1 4 は、上述のような上面蓋部 1 7 と、正面蓋部 1 8 と、一对の側面蓋部

19とからなる構成を備えることになる。

【0013】

本実施形態によれば、紙容器10は、紙箱29の内部に積層状態のシート状洗剤11及び印籠部21を収容した製品として流通、販売される。シート状洗剤11の使用時には、切断帯33を引き裂いて外殻体20と蓋部材14とに分割し、蓋部材14を開閉可能な状態としてシート状洗剤11を取り出す。

【0014】

本実施形態の紙容器10によれば、蓋部材14は、ヒンジ接合により容器本体12と一体として設けられているので、開閉時の取り扱いに便利である。また、蓋部材14は、上面蓋部17、正面蓋部18及び側面蓋部19からなる充分な大きさの立体形状を有し、容器本体12の上端開口面13及び凹状切り欠き部16を隙間なく覆うことができるので、異物の混入や付着を容易に回避しつつ良好な封止状態でシート状洗剤11を収容することができる。さらに、正面板15に凹状切り欠き部16が形成されていることにより、積層されたシート状洗剤11を正面側から摘みやすくなり、容易に取り出すことが可能になる。さらにまた、蓋部材14は、紙箱29の接続稜線32において容器本体12にヒンジ接合しているので、背面板27を背後の壁等に密着させて容器本体12を設置した場合でも、蓋部材14を上方に回動して開蓋することができ、上端開口面13及び凹状切り欠き部16を介してシート状洗剤11を容易に取り出すことが可能になる。蓋部材14は、前記接続稜線32において、容器本体12にヒンジ接合しているため、元の形に戻ろうとする板紙の習性によって蓋部材14が容器本体12より上方へ浮き上がり易くなり、封止状態が保てない場合がある。そこで、蓋部材14の正面蓋部18の下端部分を容器本体12の正面板15の舌状係止部26に係合させて、封止状態を保持できるようにした。閉蓋時には、蓋部材14の正面蓋部18の下端部分が舌状係止部26に係止されることにより、紙容器10の閉まり感を認知することができると共に、封止状態を確実に保持できる。

【0015】

すなわち、本実施形態の紙容器10によれば、扱い易く、閉蓋時における良好な封止状態を得ることできると共に、シート状洗剤11の取り出し易さが改善さ



れることになる。

【 0 0 1 6 】

図 5 は、本発明の他の実施形態に係る紙容器 5 0 を示すものである。この紙容器 5 0 によれば、容器本体 5 1 は、印籠部のない一重構造となっている。また、容器本体 5 1 の上端開口面 5 2 の背面側縁部に蓋部材 5 3 がヒンジ接合されていると共に、容器本体 5 1 の正面板 5 4 には凹状切り欠き部 5 5 が形成され、これの下端縁部には舌状係止部 5 6 が設けられている。この紙容器 5 0 によれば、蓋部材 5 3 によって上端開口面 5 2 及び凹状切り欠き部 5 5 を覆い、当該蓋部材 5 3 の周縁部を容器本体 5 1 に接着した状態で流通、販売される。また、接着状態を解除し、蓋部材 5 3 を開閉可能にしてシート状洗剤 1 1 を取り出すようになっている。この紙容器 5 0 によっても上記実施形態の紙容器 1 0 と同様の作用効果が得られる。

【 0 0 1 7 】

なお、本発明は上記実施形態に限定されることなく種々の変更が可能である。例えば、凹状切り欠き部の下方に蓋部材の係止部を設ける必要は必ずしもなく、係止部は舌状係止部以外の形態のものを採用できる。また、薄板状のシート状洗剤に限定されることなく、粉状洗剤や食品等、その他の収容物を収容する容器として採用することもできる。さらに、蓋部材の側面蓋部は、必ずしも直角 3 角形状のものである必要はない。

【 0 0 1 8 】

【発明の効果】

本発明の紙容器によれば、扱い易く、閉蓋時における良好な封止状態を得ることできると共に、収容物の取り出し易さを改善できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施形態に係る紙容器の開蓋状態の斜視図である。

【図 2】

本発明の一実施形態に係る紙容器の分解斜視図である。

【図 3】

本発明の一実施形態に係る紙容器の閉蓋状態の斜視図である。

【図 4】

切断帯を引き裂く状態を説明する斜視図である。

【図 5】

本発明の他の実施形態に係る紙容器の開蓋状態の斜視図である。

【符号の説明】

- 1 0, 5 0 紙容器
- 1 1 シート状洗剤
- 1 2, 5 1 容器本体
- 1 3, 5 2 上端開口面
- 1 4 蓋部材
- 1 5, 5 4 正面板（容器本体）
- 1 6, 5 5 凹状切り欠き部
- 1 7 上面蓋部
- 1 8 正面蓋部
- 1 9 側面蓋部
- 2 0 外殻体
- 2 1 印籠部
- 2 2 正面板（印籠部）
- 2 3 側面板（印籠部）
- 2 4 切り込み
- 2 5 側面板（容器本体）
- 2 6, 5 6 舌状係止部
- 2 7 背面板（外殻体）
- 2 8 折れ癖線
- 2 9 紙箱
- 3 0 上面板（紙箱）
- 3 1 背面板（紙箱）
- 3 2 接続稜線

3 3 切断帯

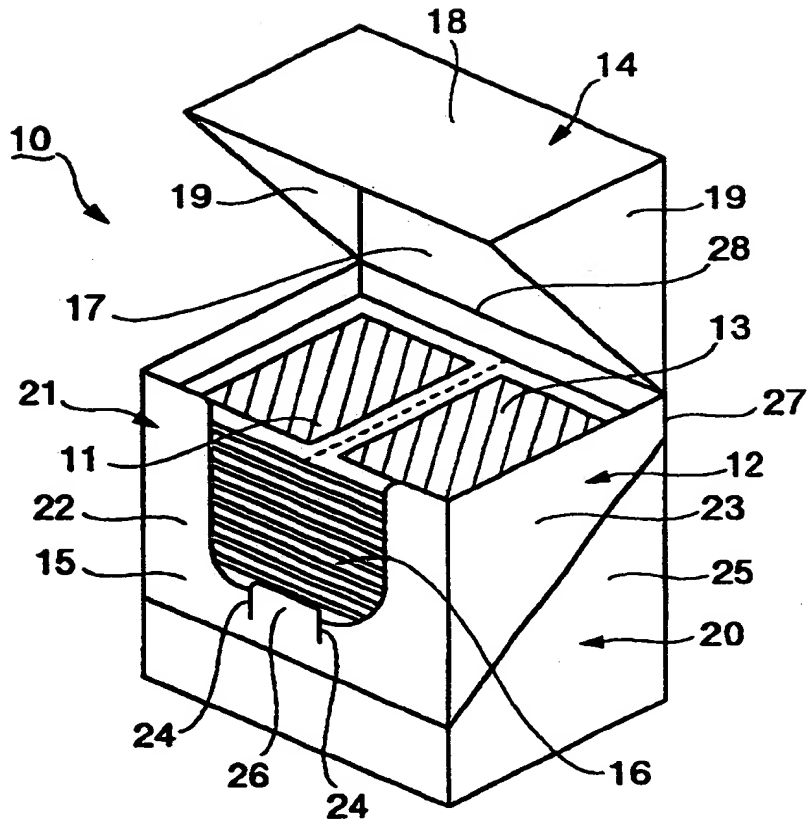
3 4, 3 5 ミシン目

3 6 側面板 (紙箱)

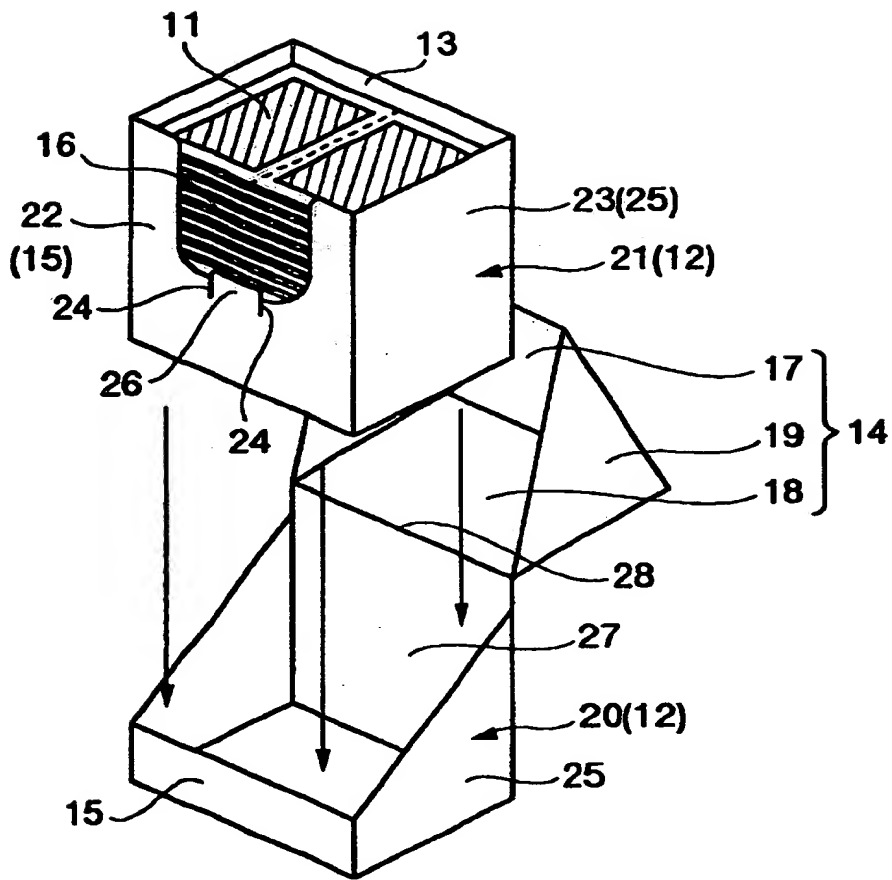
3 7 正面板 (紙箱)

【書類名】 図面

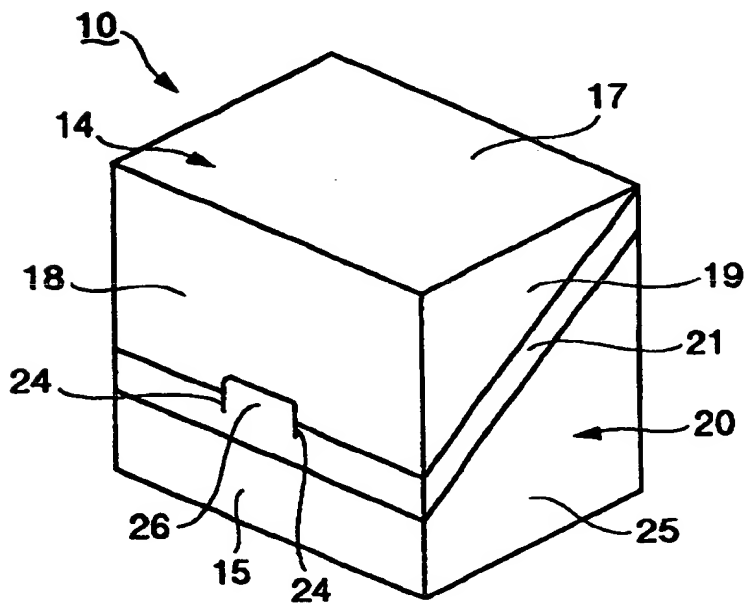
【図 1】



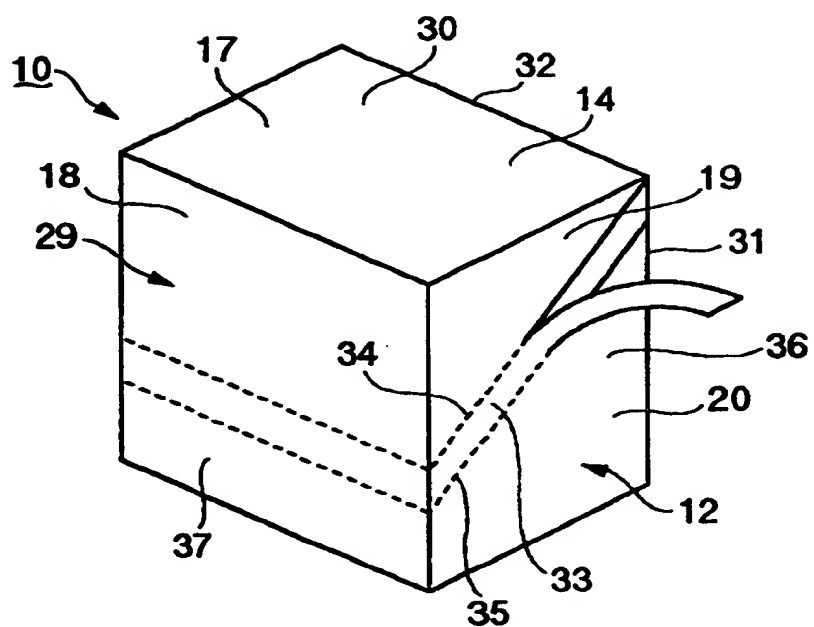
【図 2】



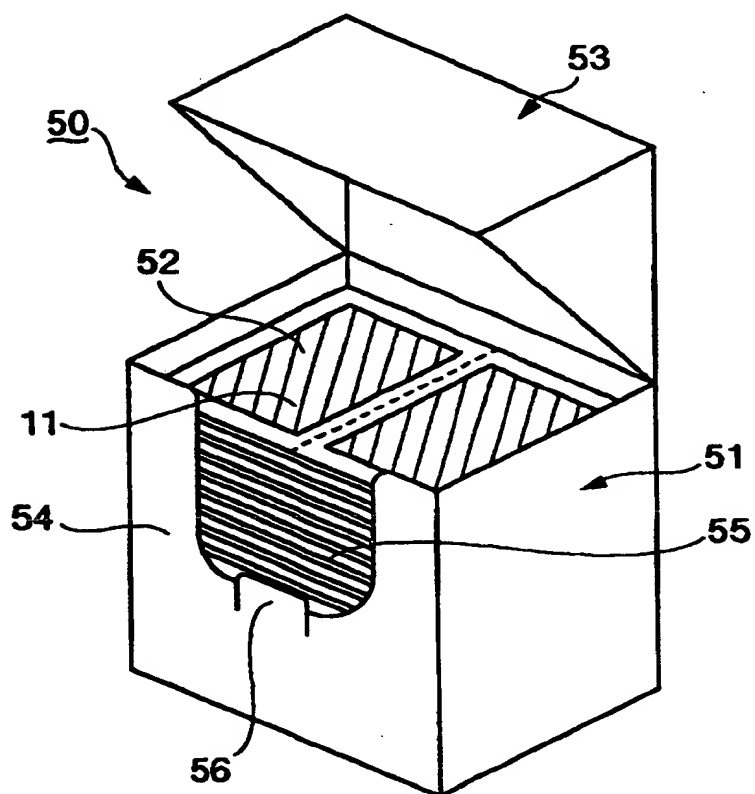
【図 3】



【図4】



【図5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 扱い易く、閉蓋時における良好な封止状態を得ることできると共に、収容物の取り出し易さを改善した紙容器を提供する。

【解決手段】 板紙を製函して形成される 6 面体形状の紙容器 1 0 において、容器本体 1 2 と、容器本体 1 2 の上端開口面 1 3 の背面側縁部にヒンジ結合されて当該上端開口面 1 3 を開閉する蓋部材 1 4 とからなり、容器本体 1 2 の正面板 1 5 には上端開口面 1 3 から延設された凹状切り欠き部 1 6 が形成されている。また蓋部材 1 4 は、上端開口面 1 3 を覆う上面蓋部 1 7 と、凹状切り欠き部 1 6 を覆う大きさの正面蓋部 1 8 と、上面蓋部 1 7 の側縁部と正面蓋部 1 8 の側縁部との間に介在して上面蓋部 1 7 に対して正面蓋部 1 8 を垂直に接合させる一対の側面蓋部 1 9 とからなる。凹状切り欠き部 1 6 の下方には、蓋部材 1 4 の正面蓋部 1 8 の下端部分を係止する舌状係止部 2 6 が設けられている。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000000918]

1. 変更年月日 1990年 8月24日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

氏 名 花王株式会社